



会津医療センターから こんにちは！



【 1 1 】

精神医学講座
教授 川勝 忍

『認知症の専門的な医療』

少子高齢化の時代を迎え、認知症が大きな社会問題となっています。私は、認知症の診断、治療を専門領域としており、会津地域ひいては福島県全体の認知症診療向上に貢献できればと思い、5年前に郷里の山形から会津医療センターに参りました。

一口に認知症と言っても、その中身はさまざまであり、簡単ではありません。認知症の多くは、アルツハイマー型認知症に代表されるような脳神経細胞が徐々にやせて抜け落ちてしまうようなゆっくりと進行する病気です。一方、認知症に似ているが実は認知症ではない回復可能な状態として、体の病気や入院などの環境の変化による脳機能の一時的な低下によるせん妄状態、うつ病などの精神疾患に伴う意欲や集中力の低下、頭のケガや腫瘍などがあり、しっかりと区別する必要があります。

会津医療センターでは、磁気共鳴画像装置（MRI）やSPECT装置などを用いた詳細な脳画像診断と、脳機能を詳細に評価する神経心理学的検査による正確な診断、治療方針の決定、心理・社会的サポートを行っています。

診断が非常に難しい疾患である優性遺伝性アルツハイマー病や前頭側頭葉変性症についての全国プロジェクトに参画し、認知症の原因物質であるアミロイド、タウなどの異常蛋白（たんぱく）蓄積の脳内分布と画像診断の関係についても研究しています。2017（平成29）年度からは日本における若年性認知症の実態調査の協力施設に選ばれ、県と協力して県内で調査を始めております。若年性認知症は認知症施策の中でも最も遅れている分野で、その対策の重要なデータを集めているところですので皆さまにご協力を頂ければ幸いです。

私が会長を務める第33回日本老年精神医学会は市民公開講座「みんなの知恵を集めて、うまくいくケアを目指す、認知症ちえのわnetの挑戦」と「若年性認知症の診断と支援、人生終わりじゃない」を6月30日午後5時から郡山市のビッグパレットふくしまで開催します。参加無料です。同学会のホームページからお申し込みいただけますので、ぜひ認知症について一緒に考えてみましょう。